

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101827		
法人名	株式会社 ライフセーバーコーポレーション		
事業所名	グループホーム ミントつくだ		
所在地	青森市中佃3丁目18-9		
自己評価作成日	平成30年7月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、音楽療法を開催し、専門的な分析や助言をいただき、ケアに活かしている。</li> <li>・利用者一人ひとりの能力に合わせたケアを行い、機能維持に努めている。</li> <li>・季節に合わせた風習や行事に利用者と職員が一緒に取り組み、活気ある生活を送れるように努めている。</li> <li>・年1回、夏まつりを開催し、利用者やご家族様、地域の方々交流できる機会を設けている。</li> <li>・職場体験やボランティアの受け入れを通じ、認知症介護の啓発に努めている。</li> <li>・認知症ケア専門士有資格者を配置している。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成30年9月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街の中にあり、ホームも利用者も地域住民として受け入れられている。特に、会社員が多く、町内の行事がない地域のため、ホームの夏まつりに地域住民が参加し、地域交流の場となっていることは社会資源としての役割が大きい。</p> <p>ホームは市役所や地域包括支援センター、病院、訪問看護等の他サービス事業所とも連携し、利用者が安心して生活できる環境を整えている。</p> <p>また、苦情受付箱を設置しているほか、面会簿にアンケートを掲載し、サービスの評価や要望等を記載してもらっているほか、面会時の家族とのやり取りも記録し、非常に有効な記録となり、サービス提供に活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関や廊下、休憩室等に掲示し、周知に努めているほか、毎月開催するカンファレンスや勉強会等の折に話し合い、共有を図り、ケアに取り組んでいる。	利用者本位のホーム独自の理念があり、玄関や廊下等に掲示している。管理者や職員は理念を日々のサービス提供の場に活かすように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、ホーム便りを回覧板で地域に配布し、ホームの日常や取り組みを理解していただけるように取り組んでいる。年2回、近所のお宅を訪問し、直接、意見や要望を伺っている。	ホームの夏祭りへの招待やホーム便りの配布、年2回、町内会への挨拶回り等、利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるように、地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、介護保険や認知症についての情報を掲載したホーム便りを回覧板で地域に配布している。また、実習生やボランティア受け入れの際は、事前にオリエンテーションを行い、プライバシーの配慮に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム概要やサービスの種類について、理解を深めていただけるように努めている。また、日々の様子やサービス評価を踏まえ、意見をいただく機会としている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。会議では、利用者やサービス提供の現状、自己評価及び外部評価への取り組み等について、報告や話し合いを行っている。また、家族へも積極的に声がけをし、参加を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出し、ホームの現状を伝えている。	利用者の入居やサービス利用、生活保護の申請等について、市担当者と日頃から連絡を取り、市や地域包括支援センターと協力関係を築いているほか、成年後見制度の利用でも連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例やマニュアルに沿って、定期的に勉強会を開催し、全職員が身体拘束を行わないという姿勢でケアを提供している。また、身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回、検討会議を行っている。	身体拘束に関するマニュアルや同意書、記録の様式を整備している。また、身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、会議を開催し、管理者をはじめ、職員は身体拘束における利用者への弊害を理解しており、玄関や居室の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やマニュアルに沿って、定期的に勉強会を開催し、全職員が虐待に関する理解を深め、虐待を行わないケアを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、全職員が制度に関する理解を深めている。また、必要と思われる利用者やご家族様には積極的に制度を紹介し、必要があれば相談や手続きを代行している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、十分に説明を行い、同意を得ている。また、退居時に関わる事項についても、入居時や退居時に十分に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に説明を行うと共に、ホーム内やホーム便りにて案内している。また、意見や要望があった際は、全職員に周知し、検討する機会を設けている。	運営推進会議に利用者や家族等が出席しており、意見や要望を管理者や職員、外部者へ表せる機会を設けている。また、苦情解決の窓口を設置して、家族等へ周知し、苦情や要望がある際には迅速に対応する体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員との個別面談を行うと共に、申し送りやカンファレンスの際に話し合い、出された意見や提案は管理者会議の際に検討することとしている。	定期的な職員会議は開催していないが、毎月のカンファレンスの際に、職員が運営に関する意見や提案を出す機会を設け、事案に応じて、管理者を通して経営者へ伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	優秀な職員は給料をアップしたり、パートから常勤に昇格する等、向上心を持てるようにしている。また、個々の事情に合わせた勤務体制に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスに則り、職員個々に学んでほしい事を定め、研修を受ける機会を設けている。また、エルダーメンター制度を取り入れ、早期離職を防げるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等が主催している研修や親睦会に参加する機会を設けている。また、地域包括支援センターの圏域グループホームで開催している地域ケア会議に参加し、情報交換の機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から入居決定までの期間に数回の面談を行い、直接話をする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入居決定までの期間に数回の面談を行い、直接話をする機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限りの対応を行うが、困難なケースにおいては、サービスの種類に関わらず、他の機関を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	申し送りやカンファレンス、勉強会等の折に、「敬う心」を踏まえた上で、「支えあう」ことについて話し合い、全職員が良好な関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折に、日々の様子を報告すると共に、月次報告にて利用者の様子をお知らせしている。また、定期的な面会や行事への参加を依頼し、利用者と共に過ごせる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出かけられるように支援している。また、電話や手紙での交流をはじめ、面会での交流を図れるように支援している。	家族や在宅当時に関わっていた方等から情報を収集し、利用者の生活歴を把握している。また、馴染みの方や場所との関係が途切れないように、外出や電話連絡をする等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを配置し、くつろげるスペースを設けている。また、個々の状態に合わせて、利用者同士が支え合う場面の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居当初より、サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行えることを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者のこれまでの生活や習慣の把握に努めると共に、できる限り多くの希望や意向を取り入れるように努めている。	職員は3ヶ月毎の担当制となっており、全職員が利用者を知り、情報を共有している。担当者は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているほか、確認が困難な場合は、利用者本位になるように全職員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーやご家族様から、生活歴や習慣、サービス利用の経過等、多くの情報をいただき、把握に努めているほか、ご家族様の面会時に情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や関わりから、全職員が情報を収集すると共に、共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に担当を決め、利用者の状態把握に努め、介護計画作成者と協力してモニタリングを行っている。また、毎月、カンファレンスを開催して、情報を交換し、介護計画立案に繋げている。	個別に介護計画を作成しており、利用者の課題やケアについて、利用者や家族、関係機関等と話し合いを行っている。また、利用者の状況を的確に把握し、利用者にあった介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録のほか、業務日誌等に記録を残し、情報を共有できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援をはじめ、受診の際は職員が付き添っている。また、必要に応じてご家族様の送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校のボランティア活動や職場体験等を受け入れ、利用者との交流の場を設けている。また、年1回、夏まつりを開催し、利用者やご家族様、地域の方々が交流できる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族様の希望を基に、かかりつけ医への受診を継続できるように支援している。	入居前から通院していた病院を継続して受診ができるほか、協力病院の往診もあり、利用者や家族等の希望を聞きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による健康チェックを行うと共に、定期的に助言をいただいている。また、医療処置が必要となった時には、主治医の見解のもとで、医療保険による訪問看護を利用できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中から定期的に面会に出向き、利用者の状態を把握しているほか、ホームで対応可能な状態を明確に伝え、今後の受け入れ体勢を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応や看取りについて、ご家族様に説明を行っている。また、早期からご家族様の意向を確認している。	入居時に重度化した場合や終末期対応について説明している。また、利用者や家族等と話し合いを行い、その都度、家族と方針を共有し、看取りの希望がある場合は、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修への参加や伝達研修を行い、勉強の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。ホーム便りにも、ホームの体制や協力への働きかけについて記載している。	年2回、定期的に職員と利用者が避難訓練を実施し、昼夜を問わず災害時に、利用者を避難誘導できる方法を身につけるように、全職員が取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務やプライバシーについて定期的に勉強会を行い、全職員への周知に努めている。また、日々のケアの振り返りに努めている。	入居時に利用者や家族と呼び方について話し合い、基本的に「さん」付けで呼んでいる。また、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせ、利用者が自分で選べるように場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、個々の状態に合わせていることができるように、時間に余裕を持たせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは個々の状態に合わせて、利用者が自分で選べるように場面づくりを行っている。また、身だしなみはできる限り利用者が行い、職員も配慮しながら整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備段階で参加していただいている。また、敷地内で採れた物を使った献立や季節行事に合わせた献立を取り入れている。	献立は職員が作成し、利用者の希望や好みに配慮している。また、食事が楽しみになるように、利用者と一緒に準備や片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎に記録を残し、状況を把握できるようにしている。利用者の状況に合わせてミキサー食にする等、食べやすい工夫を行っている。また、水分補給には個々の嗜好品も取り入れたり、形状を工夫し、補給量の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや誘導、見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンに合わせた声がけや誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄記録を作成し、排泄の状況を把握している。また、紙オムツの使用について検討しており、排泄のパターンや習慣を活かしながら、失敗や使用を減らし、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保や乳製品を取り入れる等、自然排便を促せるようにしているほか、できる限りトイレでの排泄を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回、入浴を行っており、利用者から希望があれば、その都度、対応している。	週2回を基本に、個別で入浴しており、順番を決めず、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、個々に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りにて利用者の前夜の睡眠状態を把握し、その時の状況に合わせ、休養時間の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入れ物に保管し、処方箋はファイルして、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、日常的に役割の提供を行っている。また、園芸や手芸等、入居前からの趣味を継続して行えるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣を散歩したり、外出行事を企画して、出かける機会を作っている。	冬期間を除き、月1回は外出の機会を設けており、利用者の希望に沿って、外出できるように支援している。また、利用者の希望を把握し、家族と協力しながら、自宅や外食等に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせ、所持していただいている。また、希望があれば職員が付き添って買い物に出たり、外出行事の機会を設け、買い物の機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常に利用できるように設置しており、手紙も個々の希望に合わせ、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品や昔ながらの郷土品等を飾っている。	玄関や廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等は清潔に掃除しており、利用者にとって音や光、温度等の不快な刺激がないように配慮している。また、季節毎の装飾や窓から見える花々から季節感を感じ取り、居心地良く過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、ホール以外にもテーブルやイスを配置することで、馴染みの利用者同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様へ、自宅で使用していた馴染みの物を持って来ていただくようにしている。また、家具等も自宅と同じ配置にする等、工夫している。	持ち込みは自由であり、居室は利用者や家族と相談して、使い慣れた物や好みの物を持って来てもらっている。また、持ち込みが少ない場合は、利用者と職員と一緒に、居心地良く過ごせるような居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は大きい文字で表記し、分かりやすくしている。		